

(様式7)

事業所における自己評価結果(公表)

公表年月日: 令和2年3月17日

事業所名 デイサービス あそぼ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	限られた空間のため、状況によって利用用途を変更したり、活動内容によっては、部屋を仕切って行ったり、移動式のパーティションなどを使って環境作りをおこなっている。
	2 職員の配置数は適切である	7	1	配置数では適切であるが、利用者の状況や活動内容・長期休暇などによっては、職員を増やして対応していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	建物はバリアフリーとなっているが、部屋とトイレの境目、畳の縁の部分などは職員が配慮していく。また余暇物品などの置く場所に注意していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	会議・打ち合わせなどでも行っている。根拠(エビデンス)に基づきサイクルを行っていく。特に各内容を評価・振り返りを大切にしている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	評価表と法人独自にアンケート(保護者子どもたち)も実施。アンケート結果を真摯に受け止め、今後に繋げて言ったり、保護者や子どもたちとも改善に繋がるような話しをしていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	通信での配布、ホームページの掲載も引き続き行っていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5	外部評価は取り入れていないため、法人として今後検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	法人内部研修実施。事業所内でもワールドカフェ的な内容も実施。市内の研修や支援協会で行っているものにも参加している。毎年全国発達児協議会報告研修にも参加している。また福祉とは限らず、各自興味ある内容のものも参加している。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	子どもたちの想いや取り組みたい事・頑張りたい事などを聞きとる。そのくみ取り方などは個々によって検討する。障がい特性などのアセスメントを取り、保護者・学校・相談員などとも連携を図り、より一層の工夫を今後とも行っていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	特性アセスメントし現状を把握、必要に応じた見える化・具体化・構造化・視覚支援を取り入れる。状況に応じて再検討を行う。学校や家庭の内容を確認し、統一を図っていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	プログラムで担当を決めて立案。各内容によって役割を検討して取り組む。サイクルをして次回に繋げていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	積み重ねてスキルアップに繋げていく活動と、季節や地域性などからの活動を織り交ぜて組み立てる。利用している子どもたちの話しあう機会を作り、集中し楽しみながら、スキルアップできるよう工夫・検討を重ねていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	平日・休日・長期別々のプログラムを設定。特に学校帰りの時間帯も各学校により違うため、内容・時間・場所・個別・グループなど状況によって設定を行う。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	個別活動では、本人や保護者のニーズ、事業所のアセスメントでの結果で設定、集団では共に行う楽しさや協調性、友達と取り組む達成感などが感じられる計画を検討している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2	日誌やケースを確認。支援に入る前に打ち合わせを行っている。緊急のものも個々にスタッフルームで報告等を行っている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	その日のうちに報告・共有・検討出来るよう、伝え方・引継ぎ方法など、わかりやすく進められる様準備・工夫を行う。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	書きやすく・読みやすくするため、活動項目・メンタル・学校様子・健康…など項目を記入する場所を設定。課題準備などする時などはその部分を確認して行っている。
	18 定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1	本人と取り組みの話しや、思っている事などの話しを行っている。保護者や計画相談員、学校の様子も確認している。

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ て支援を行っている	7	1	内容や状況によって項目を確認する。今後も熟読を行って いくが、不明な内容などがあった場合は、行政や他の放課後等 デイスーパーサービスなどにも確認を行っている。
関係機 関や保 護者 との連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参 画している	7	1	児童発達管理責任者を中心に参画を検討するが、その内容や 状況によっては、一番身近・直接支援しているスタッフが参画し ているものもある。本人や保護者と相談させていただいている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交 換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎 時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っ ている	8	0	保護者や計画相談員、学校の担任の先生にも協力して頂けて いる。内容・状況・緊急などの場合は速やかに連絡・調整をおこ なっていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、 子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	2	保護者の方を中心に体制を整えている。利用されている方によ っては、緊急時の対応マニュアル的な内容をお預かりしたり、救急 隊員に提示する書類もあり。緊急時や連絡体制間での会議や打ち 合わせがなかったり、整えられていないところもあるため、保護 者と連絡をとり、今後も検討していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こ ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と 相互理解に努めている	7	1	計画相談員を通して連携を図れている方いるが、今後も関係作 りや共有方法は検討課題となっている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイスーパーサービス事業所から 障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それ までの支援内容等の情報を提供する等している	8	0	計画相談員を通して行っている方、保護者を通して直接事業所 間で引き継ぎ・共有を行う場合もある。得意な事・好きな事、メン タル面の観察方法、使用していた支援アイテム、プログラムの設 定など個々によって様々である。すこしでもスムーズな移行が出 来るよう協力体制を築いていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター 等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	研修に参加。今後連携体制を検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいの ない子どもと活動する機会がある	0	8	放課後等デイスーパーサービスとの交流はあるが、学童クラブや児童館 との交流はない。参加する子どもの想いや保護者の意見確認し ながら、地域作りの一環として、まずは職員同士の交流、近隣の 放課後等デイスーパーサービスとも連携を共に図っていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	6	2	法人としての参加、設定されている部会への参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子ども の発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	利用前・利用後、お迎えや送迎時などの時間を大切にしている。 伝えられなかった内容、状況であった場合はその日のうちに電話 連絡や、後日改めてお話をする日を設定させていただく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者 に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っ ている	3	5	職員の知識不足がまだある。研修や勉強会に参加し、研修内容 を共有・情報スキルアップを図る。
保護 者への 説明 責任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な 説明を行っている	8	0	重要事項説明書を中心に、年度初めに説明を行っている。負担 金は受給者証・請求書なども提示・配布し確認・説明させていた だく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切 に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2	いろいろなお話を聞かせていただいている。職員としてお話をせ ていただいているが、まだまだ不十分さを感じている。今後もス キルアップ出来る研修に参加して対応させていただきたいと考 える。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催 する等により、保護者同士の連携を支援している	6	2	臨床心理士を含めた座談会を実施、親子活動などはあるが、保 護者会などはない。保護者の意見も確認し検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制 を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦 情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	苦情担当窓口職員・苦情解決職員など苦情対策委員会を中心 に、迅速に対応するよう心掛けている。お話や意見は貴重なもの と真摯に受け止め、法人全体としても今後の支援・対応・サポー トに反映していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、 連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信 している	7	1	定期的に法人より広報誌の作成、ホームページの更新を行っ ている。事業所として保護者用・利用者用の通信を発行。子ども や保護者からもアンケート・意見をいただき、掲載内容を検討し ている。
	35	個人情報に十分注意している	8	0	細部に関しても十分に注意・配慮していく。個人情報取り扱いに 関する研修などにも参加を検討している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情 報伝達のための配慮をしている	8	0	全体に対するスケジュールを表示、個々では活動に関する手順 書、個別のスケジュールボードの作成や、ノートを作り本人と保 護者と確認、見える化・視覚表示、わかりやすい説明を行って いる。見直し再設定する（再構造化など）の視点をわすれずにす る。そのために会議や学習会を行い続けていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開 かれた事業運営を図っている	3	5	法人として地域貢献も含め取り組める事はなにか、プロジェクト チームを現在作成中。今後の検討課題とする。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症 対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知し ている	7	1	説明の機会を設定、その都度法人・事業所から通知を配布して いる。社会情勢・地域課題等、今回の新型コロナウイルス感染症 も含め、問題視しなくてはならない状況にその都度今後も検討 していく。

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	2	法人でプロジェクトチームを作り取り組んでいる。定期的な避難訓練(避難する・避難食を体験する・児童向け防災ゲームなど)を行ったり、防災センターで体験を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	講師をお招きし法人全体で研修を実施している。根本的な虐待に関する内容だけではなく、虐待しない環境とは、適切な支援とは、意思決定支援などの視点での研修も行う。事業所内でも、いろいろなチェックリストの実施、事例検討や、グレー・不適切な支援などについても話し合いの場を設けている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	上記の研修内に組み込まれている。必要な場合に関しては、本人・保護者との話し合いや説明を行うが、まずはそうしない・そうならないためにはどうすべきかを、早期に保護者を含めた関係者と相談していきたいと考えている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	保護者に食物アレルギーに関する書類を法人で作成。細かく記入して頂き、食品名の記入がある保護者と話をする。医師からの対応内容がある方は、別の用紙で詳細を提出していただく。個々によりアレルギーが出やすい時期などもあるため、その時期に関しては、メニュー・食材内容を確認していただいている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	ヒヤリハットは事業所内でも、法人内でも回覧している。それ以外にも、気が付いた事をなんでもメモにし、全員が共有できるようなボードを作成、タイムリーに確認できるようになっている。リスクマネジメント研修をスタッフが受講、講義内容を共有した。